

令和8年度 第1回江別市文化財保護委員会会議録（要旨）

日 時	令和8年5月26日（火） 午前10時00分～午前11時00分
場 所	教育庁舎 大会議室
出席委員 （10名）	◎小林孝二、○右代啓視、池田典子、後藤一樹、園部真幸、成田裕之、本吉トキ子 柳瀬由佳、山田伸一、山本あさ子
市・事務局 （6名）	教育部長、教育部次長、郷土資料館長、業務係長、文化財係長、文化財係主査
傍聴者	なし
議題	(1) 令和7年度郷土資料館実績報告及び令和8年度郷土資料館事業計画について (2) 令和7年度下半期に受け入れた寄贈資料について (3) 令和8年度文化財施設の整備について (4) その他

会議録（要旨）

郷土資料館長	<p>（開始10：00）</p> <p>ただいまから令和8年度第1回江別市文化財保護委員会を開会する。</p> <p>会議の後、高砂遺跡を見学するため、11時頃をめどに式次第にある議題について議論いただき、その後、公用車で移動して、40分程度現場を見学していただきたいと考えている。</p> <p>また、江別市小中学校長会推薦の委員が交代となった。5月22日付けで就任された委員から一言ご挨拶をお願いします。</p>
委員	（挨拶）
郷土資料館長	<p>続いて、令和8年度第1回文化財保護委員会の開会に当たり、教育部長からご挨拶申し上げます。</p>
教育部長	<p>令和8年度第1回文化財保護委員会の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>皆様には、日頃より当市の教育行政、とりわけ文化財保護事業の推進について、格別のご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。</p> <p>また、何かとお忙しい中、本日の委員会にご出席を賜り、感謝申し上げます。</p> <p>本日は、次第に記載のとおり、3件を議題とし、事務局から報告させていただく。皆様から、ご意見・ご提言等をいただければと思う。</p> <p>また、議題終了後に現在高砂遺跡で行っている発掘現場を視察していただくこととしている。この高砂遺跡は市内を代表する遺跡で、発見された遺物は縄文時代早期から擦文時代までの長きにわたるが、令和3年度の調査においては、長さ30センチメートルの石器が発見されており、これは黒曜石製では市内では最大のものとなっている。5月から始まった今年度の調査においても、既に多くの石器・土器が発見されているので、現場をご覧いただき、ご質問等賜りたいと考えている。</p> <p>結びになるが、現委員の任期が本年7月31日までとなっていることから、今回の委員会が最後となる予定である。委員会において、事務局が作成する資料等において行き届かない点多々あったかと思うが、皆様から、多くのご意見やご提案を賜ったこと、あらためて、お礼申し上げます。今後とも当市の文化財保護・文化行政に対し、ご支援・ご協力を賜るようお願い申し上げ、開会のご挨拶とさせていただきます。本日の</p>

	委員会、よろしく願います。
郷土資料館長	議事に先立ち、本日の傍聴者を確認する。
文化財係長	傍聴を希望される方はいない。
郷土資料館長	傍聴を希望される方はいないので、議題に入らせていただく。 以後の進行は、江別市文化財保護条例施行規則第3条第3項の規定により、委員長に願います。
委員長	それでは、次第に沿い、次第3の議題(1)「令和7年度郷土資料館実績報告及び令和8年度郷土資料館事業計画について」、事務局から報告願う。
業務係長	<p>議題(1) 令和7年度郷土資料館実績報告及び令和8年度郷土資料館事業計画についてを資料に基づきご説明する。</p> <p>始めに、令和7年度の事業等実績報告について、資料の1ページをお開き願う。</p> <p>項目1については、令和7年度の各施設ごとの利用者数を記載しており、利用者数合計は、5,597人で前年度から500ほど減少した。</p> <p>常設展の入場者については、前年度から300人ほど増えたが、小学校へ出向き実施する出前授業の回数が15回と前年度(21回)より6回減ったことが、利用者数が減少した主な要因である。</p> <p>次に、項目2については、各講座及び小中学校に対する総合的な学習支援の内訳を記載している。</p> <p>主なものとしては、小学校4年生から6年生を対象に実施した子ども学芸員ガレッジでは、13名のお子さんに参加していただき、土器づくり、拓本づくりや市内見学など通じ、学芸員のお仕事を体験するとともに、ふるさとの歴史について学習した。</p> <p>また、「再発見・江別探訪」では、ウォーキングや公用バスを使用し、市内の史跡などを見学した。参加者からは、普段なら足を運ばない場所に行くことができたなどの感想をいただいている。</p> <p>資料の2ページ目をお開き願う。こちらには、令和7年度小中学校等の施設見学及び出前講座の実施状況を、記載している。</p> <p>次に、資料の3ページ目をご覧願う。</p> <p>企画展の開催状況について記載している。令和7年度は2回企画展を開催した。</p> <p>1回目は「文字はデジタルの時代へ」と題し、所蔵している資料をもとに、一般の手に届かなかった「活字」が技術革新により容易に扱えるようになった時代の変遷を紹介した。</p> <p>期間中に活字をスタンプして、オリジナル名刺を作成する体験コーナーを設けたが、記念に作成されていかれる方も多くいらっしゃった。</p> <p>2回目は、「えべつの昭和100年」と題し、令和7年が昭和元年から数えて昭和100年を迎える年であったことから、昭和時代の江別について、当館の収蔵品を通じて振り返る展示をした。あわせて、上映コーナーを設置し、懐かしい江別の映像を紹介した。</p> <p>また、新たな取組として、皆様により楽しんでいただけるよう、規模や期間などにこだわらない「ミニ展示」や、寄贈いただいた資料を公開する「新収蔵品展」の開催、さらに江別の歴史や郷土資料館を多くの方に知っていただくために郷土資料館から会場を変えて、考古資料を紹介した出張展示を実施した。</p>

	<p>実施した事業の詳細については、資料をご参照願う。</p> <p>続いて、令和8年度の事業計画について、ご説明する。</p> <p>4ページ目をお開き願う。</p> <p>こちらには、各事業の内容と予算額の内訳を記載しており、主なものをご説明する。</p> <p>1段目の「ふるさと江別塾～江別を学ぶ」開催事業は、市民の方に「えべつの歴史」への関心や理解を深めてもらうことを目的に、講座の開催及び小中学校に対する総合的な学習支援を実施するものである。詳細は、資料5ページに記載している。</p> <p>2段目「郷土資料館管理運営経費」は、各施設の管理運営に要する経費で、会計年度任用職員の報酬、光熱水費や管理業務に係る委託料である。人件費・物価高騰等の影響により令和7年度より予算が増額となっている。</p> <p>次に、5段目・6段目については、「野幌太々神楽」の伝承を行っている二つの団体に対して、補助金を交付するための経費を計上している。</p> <p>7段目「埋蔵文化財発掘調査事業」については、委員会終了後に現地を見ていただく発掘調査にかかるものである。</p> <p>その下、8段目の「郷土資料館企画展開催事業」は、開催予定の事業を6ページに記載している。</p> <p>最後の段の「文化財施設等整備事業」については、後ほど議題（3）でご説明する</p>
郷土資料館長	<p>引き続き、歴史的建造物である旧町村農場と林木育種場旧庁舎の実績と今年の計画、また、セラミックアートセンターの事業についてご説明する。</p> <p>資料は7ページからとなる。</p> <p>まず旧町村農場であるが、昨年度の来館者数は21,075人になっており、各種教室・展示会・イベントの主なものを掲載している。展示会では盆栽展や己書作品展などの新たな展示会を開催し、また、物販等を伴うイベントでは500人ほどの集客があるものもあり、多くの人で賑わいを見せた。</p> <p>今年度についても、(2)に記載の各種教室・イベント等を実施する予定となっている。</p> <p>次に裏面の8ページになるが、林木育種場旧庁舎では、令和7年度の来館者数は14,670人になっており、令和6年度より約800人ほど少なくなっている。これは、2月5日から約2ヶ月間冬季営業として短縮営業を行った影響かと思われる。</p> <p>事業としては、歴史的建築物セミナーや大学生との新メニュー開発のワークショップなどを行っている。</p> <p>今年度については、昨年度同様セミナーやワークショップの開催の他、その他に記載の施設内のギャラリーアート作品展等となっているところでは、今年度、郷土資料館出張展示として4月29日から5月31日まで市内で出土した石器・土器を展示し、資料館の収蔵資料の活用を図っている。</p> <p>次に9ページになるが、セラミックアートセンターの事業についても参考に掲載している。</p> <p>セラミックアートセンターでは、各種展示会の他、陶芸教室などを行っており、昨年度は19,667人の利用があった。</p> <p>令和8年度については、センター主催の展示会としては、昨年度に引き続いて、手島圭三郎氏の絵本原画展を開催したほか、7月18日からは神田日勝展を約2ヶ月間</p>

	<p>の期間で開催する予定である。</p> <p>また、市民が交流できる施設として、ロビーコンサートや演劇会などのイベントも開催される予定である。</p>
委員長	<p>ただいまの説明に関し、意見、質問等あれば、ご発言願う。</p>
委員	<p>9ページのセラミックアートセンターについてであるが、企画展とのことだが、企画展らしいものは、手島圭三郎絵本原画展ぐらいで、ほとんど貸館事業と言って良い状態かと思う。今年度から補助執行が解除されて、晴れて教育委員会の所管施設という位置づけになったかと思うが、教育委員会として、セラミックアートセンターをどうしたいのか、どうするつもりでいるのかということについて、陶芸の里条例も廃止になったということなので、そろそろ教育委員会としての方針を出されたら良いのではと思うが、今のところどのようにお考えになっているのかお聞きしたいと思う。</p>
郷土資料館長	<p>セラミックアートセンターの事業については、陶芸の里条例が廃止となったが、新たにセラミックアートセンター条例を制定し、引き続き陶芸文化の普及振興、れんが産業の学びの機会の提供、施設環境を生かした生涯学習の場を提供する、文化芸術による魅力あるまちづくりと交流人口の拡大に資することを目的とした施設となっている。</p> <p>これまで、陶芸等の展示会などを行ってきたところだが、社会教育施設として、こいのぼりフェスティバルや青少年サークルの夏場のキャンプでの利用など、生涯学習の多様な支援の場として、セラミックアートセンターの事業を展開していく予定である。</p> <p>今後については、社会教育施設としての役割を担って行く中で、どういったあり方が良いのかを検討していかなければならないところもあるかと思うが、当面はそういった活動をしていくことになると考えている。</p>
委員	<p>陶芸関係の事業を主としてやっていくという位置付けは続けるのか。</p>
郷土資料館長	<p>陶芸文化の普及振興や、れんが産業の学びの機会の提供といったことは、引き続き目的の一つとして事業を実施していくこととなる。</p>
委員	<p>そうすると、昨年度の事業で、展覧会などでは、主催事業は緒方香三夫追悼展ぐらいで、ほとんどは貸館である。学芸員が配置されている中で貸館を中心にやっているのはどうなのかと思う。やはり、セラミックアートセンターは、学芸員が中心となって、企画、実施していく体制が望まれるのではと思う。それと、陶芸関係のものが減ってきている中で、もっと広げて美術館として位置付けてやっていくという方向性もあるのではないかと思う。社会教育施設として位置付けることは当然だと思うが、公民館とも違う、美術館として位置付けてやっていくという方向性があるのであれば、もう少し事業の内容を精査して実施していくべきだし、学芸員の配置も考え行くべきだと思う。</p>
委員長	<p>他に質問、意見等あれば、ご発言願う。</p>
委員	<p>セラミックアートセンターが教育委員会所管となったが、寄贈されたものに関して、これまで角山の文化財整理室に保管されているが、絵などの紙のものを寄贈された場合、これからはセラミックアートセンターに保管されるものも出てくるのでは、と思ったが、文化財整理室と使い分けるのか、あるいはセラミックアートセンターでは寄贈を受け入れないのかと言った役割分担は決まっているのか、これから検討する</p>

	のかを確認したい。
郷土資料館長	<p>これまでは、寄贈を受けた施設が責任を持って管理していたが、美術的要素のあるものについては、文化財整理室だと温度や湿度の管理などに課題があることから、今後はセラミックアートセンターと協力しながら、どちらの施設で保管することが相応しいか相談しながら進めていきたいと考えている。</p>
委員	<p>もう一つ、セラミックアートセンターに関連して質問したい。例えば、郷土資料館については、文化財保護委員会が郷土資料館の事業について審議しており、公民館においては公民館運営審議会があり、図書館もそういった役割の審議会があるが、セラミックアートセンターはそれがないと思う。そういったものがないと事業に関する検証が進んでいかないと感じる。社会教育委員の会議はあるが、それは社会教育全般について審議する機関なので、セラミックアートセンターに特化した事業の内容や運営について議論する場を作ることを検討した方が良いと思う。これまでは経済部所管だったためやむを得ないと思うが、教育委員会所管となったことから、社会教育施設として位置付けていくためには審議会の設置を考えていくべきかと思う。</p>
委員長	他に質問、意見等あれば、ご発言願う。
委員	<p>郷土資料館の利用者数について、小学校の出前授業の利用者数が減少したとのことだが、文化財の普及啓発には小学生世代への働きかけが重要であると自身の仕事を通じて感じている。減少したことの原因や傾向が分かればお聞きしたい。</p>
業務係長	<p>出前授業の回数が前年度より6回減ったことについては、小学校3年生で昔の道具という授業があり、その授業に呼ばれる回数が減ったということなのだが、減った原因については、学校にアンケートを取っているわけではないため私の個人的な見解にはなるが、授業が1月下旬から2月上旬にかけて実施されており、こちらからの案内は例年通りさせていただいているので、恐らく学校の授業の時間割のようなものが影響したのではないかと考えている。</p>
委員長	他に質問、意見等あれば、ご発言願う。
副委員長	<p>令和8年度郷土資料館主要事業について、4ページに文化財施設等整備事業について記載があり、野幌屯田兵第二中隊本部補修事業が実施されることになっているが、屯田資料館と屯田兵屋の展示の状態が劣悪な状態になっているので、展示についての補修についても検討をお願いしたいと思う。</p> <p>もう一つは、出前授業や小学校での郷土資料館の活用があると思う。これは学校の先生にもご意見を聞く必要があると思っているが、学校で児童を郷土資料館に連れていったときに、課題を与えて調べる形で見学することが多いと思う。これには先生達が勉強して、子どもたちに何を教えたいかを学芸員と連携して授業を展開することが重要だと思う。海外ではそういった形での教育が多いが、日本ではそうになっていないと思うので、是非、教育委員会を中心にそうした形になるよう進めていただけたらと思っている。</p> <p>もう一つは、郷土資料館で令和7年度に実施され、今年度も実施が予定されているテラコッタ用粘土で土器を制作する講座についてだが、なぜテラコッタを使うのかが分からない。江別は、れんがのまちなので、テラコッタのような簡易的なものを使うのではなく、積極的に粘土を使ってやるべきではないかと思う。れんがを理解する上での導入の部分としてやるのであれば良いと思うが、江別の文化の継承を考える上で</p>

	は、良くないのではないかと思う。
委員	<p>副委員長から学校に対して投げかけがあったので、情報提供をしたいと思うが、地域の方々が、自宅の倉庫で眠っている昔の道具をトラックに積んで学校に持ってきてくださり、体育館に並べて、地域の方々からお話を聞きながら学ぶ授業を毎年行っている事例がある。余談だが、昔の道具を持ち込んでくださる方々もお年を召していて、重い道具を運び入れるのも辛くなってきたというお話しもされていた。子どもたちも実際にそれらの道具に触れてみて、興味を持って授業に参加してくれていると感じている。</p> <p>もう一つお話しすると、私の勤務する学校では、家庭の都合で江別に住んでいない教員が多くなってきているが、もしかすると、意図的に、年度の初めなどに江別市内を回ってみるといった取組をすると、教員の関心が高まるのではないかと思う。社会の授業では、副読本で江別のことを勉強しているが、長く江別に暮らしている方々に比べると、そこに対する熱量はやや足りないかもしれないと感じることはある。</p>
副委員長	郷土資料館の学芸員と連携して教員も学習しながらやっていくことができれば良いのではないかと思う。
委員	そういった話は、校長会でも広げていくことができればと考えている。
郷土資料館長	<p>屯田資料館や屯田兵屋の展示については、補修できていないところがあるが、今後、こういった展示が良いのかを含めて検討していく必要があると考えている。</p> <p>また、テラコッタ用粘土で土器を制作することに関しては、学芸員カレッジにおいては粘土を使った本格的な講座を実施しており、セラミックアートセンターでも本格的なものを実施しているが、このことについては、まず粘土でどのように作っていくのかを取っかかりとして手軽に学んでいただき、また、短期間で持ち帰ることができるもの、という考え方のもとに実施しているものである。</p>
委員長	他に質問、意見等あれば、ご発言願う。
委員	セラミックアートセンターと学芸員カレッジでも実施はしているが、土器作りの実施には経緯がある。郷土資料館の初代館長である高橋さんが、精魂傾けて始めたもので、当時は道内ではどこも実施していなかった。江別で始め、失敗を繰り返しながら成功にこぎ着け、それが大きな事業になって、全道各地で行われるようになった。郷土資料館にとってはメインの事業と言えるもの。それが、セラミックアートセンターは今は別の組織なので、郷土資料館から離れてしまっていることは非常に寂しいと感じる。子どもだけではなく、大人や親子で参加できるような形で多くの人がれんが、やきものに触れられるような事業として続けてほしいという思いがある。
委員長	<p>江別市郷土資料館にとって象徴的な事業で、江別の事業を見て道内の他の博物館等でも実施されたところがあると思う。</p> <p>また、屯田資料館と屯田兵屋の展示については、室内展示も修理をする時期は大きく過ぎていると思っている。</p> <p>また、議題（１）の題名が、郷土資料館実績報告となっているが、文化財保護委員会の守備範囲がどこまでなのかを確認する必要があると感じている。資料館事業の報告の後に、セラミックアートセンターや林木育種場のことなどの報告があった。そう考えると、文化財保護委員会の守備範囲は、郷土資料館事業だけではなく、もっと広い部分に及ぶものと思う。</p>

	<p>旧町村農場についても、教育委員会所管ではないが、建物自体が文化財だと思う。</p> <p>また、セラミックアートセンターは、教育委員会の所管になったが、美術館と博物館が併設された施設は全国には多くあるので、郷土資料館を建て替えるよりも、セラミックアートセンターに博物館として併設する方が現実的なのではないかと感じた。</p>
委員長	<p>続いて、議題（２）「令和７年度下半期に受け入れた寄贈資料について」、事務局から報告願う。</p>
文化財係長	<p>議題（２）令和７年度下半期に受け入れた寄贈資料についてご説明する。</p> <p>議題２資料、令和７年度下半期（令和７年１０月～令和８年３月）に郷土資料館で受け入れた寄贈資料について、と題した資料をご覧願う。</p> <p>１ページに、登録点数を記載している。今期は４２５点を受け入れし、登録点数合計は２１，２３９点となった。</p> <p>２ページをご覧願う。</p> <p>寄贈資料一覧を記載している。</p> <p>令和７年度下半期受け入れた資料としては、５名の方から寄贈を受けた。</p> <p>寄贈者ごとに簡単に説明させていただく。</p> <p>３ページをご覧願う。横浜市にお住まいの方から江別高校創立７０周年記念の広告が掲載された新聞と古銭の寄贈があった。寄贈者も江別高校の卒業生で広告に名前が載っているとのことである。</p> <p>次に５ページをご覧願う。</p> <p>市内在住の方から掛け軸や古銭などの寄贈を受けている。寄贈者は北越植民者の末裔で、今回寄贈したものは、家を整理していたら出てきたものとのことである。</p> <p>次に１１ページをご覧願う。</p> <p>市内在住の方から子どもの頃遊んだパッチなど昭和２０年代～４０年代にご自身で使われていたものの寄贈を受けている。</p> <p>次に１６ページをご覧願う。</p> <p>こちら先程の№９～１３を寄贈いただいた方と同じ方だが、レコード、ソノシートなど主に１９６０年代のものを寄贈いただいている。</p> <p>次に２２ページをご覧願う。</p> <p>市内在住の方からご自身で制作された「疾風」と「キ１０６」の模型を寄贈いただいた。この模型については、本年４月２５日から５月２１日に情報図書館で行った「キ１０６」をテーマにした郷土資料館の出張展示の際に活用させていただいた。</p> <p>次に２４ページをご覧願う。</p> <p>市内在住の方から全道展会員で北海道議会議員を務めた諏訪田勝衛氏の作品２点の寄贈があった。寄贈者の父が諏訪田氏と関わりがあったとのことである。</p> <p>収蔵資料についての説明は以上である。郷土資料館では寄贈いただいた資料を適切に保管するとともに有効に活用できるよう努めていく。</p>
委員長	<p>ただいまの説明に関し、質問、意見等あればご発言願う。</p> <p>なければ、議題（３）「令和８年度文化財施設の整備について」、事務局から報告願う。</p>
文化財係主査	<p>今年度の文化財施設の整備について、今年度予算は、野幌第二中隊本部補修工事費が１４８万５，０００円、野幌屯田兵屋の修繕として１３万８，０００円を確保する</p>

	<p>ことができた。</p> <p>第二中隊本部については、正面と裏側の穴が開いた壁板を補修を行う。これについては、北海道教育委員会と協議した結果、き損届を提出し、その後修理届を提出、修理の後、完了報告の手続きを踏んで補修工事を実施する。</p> <p>実施時期は9月から10月頃を予定している。</p> <p>続いて、兵屋については、東石回りの木部が破損していることから、早期に修繕を実施したいと考えている。</p> <p>また、火薬庫につきましては、樹木が成長してきているため、将来的に火薬庫が損傷することのないよう隣接する樹木を伐採した。</p> <p>今年度、火薬庫前の市道菰ヶ岡2号道路工事が実施される。業者も近々決まると聞いている。工事に伴い、見学はしばらくできなくなる。現在、火薬庫の前がテラス状になっているが、ここが狭い形状となっており、工事によってその部分が削れることで、火薬庫の倒壊といった危険性があることから、その工事において、その部分に土を寄せて、テラス状の部分を広くして、安定な形で火薬庫を残すこととして工事が行われることとなっている。</p>
委員長	ただいまの説明に関し、質問、意見等あればご発言願う。
委員	屯田兵屋についてだが、先日見てきたが、裏の井戸の屋根の板が1枚はがれて落ちており、その板と一緒に廃材が重なって積んであった。非常に見苦しいので、それは撤去した方がいいと思う。落ちた井戸の屋根については、簡単に直せると思う。
郷土資料館長	早急に対応したいと思う。
委員長	屯田兵第二中隊本部は道指定の文化財だが、指定文化財の修理は大体30年ごとに全体を確認して実施することが常識的なことである。 これは全体の調査は入っているのか。
文化財係主査	予算が付いていないため実施できていない。
委員長	<p>全体の調査をせずにいると、突然大きな損傷につながることはよくあることなので、そうならないように気をつけていただきたいと思う。</p> <p>そして、細かい修理をした場合にも、修理履歴を残しておいていただきたいと思う。それは、次の世代にとって重要なものになる。</p> <p>火薬庫については、周囲の状況が良くなるということだと思うが、見やすいように整備の仕方を考えてほしいと思う。これは非常に貴重な建物である。小樽の機関庫は明治18年築で重要文化財になっているが、それに次ぐくらいのれんがの建物である。そういった建物であることを踏まえて、今後の江別の文化財を考える上では重要な位置づけのものとして考えてほしいと思う。</p> <p>それでは、その他、質問、意見等あればご発言願う。</p>
副委員長	<p>毎年、この文化財保護委員会の課題について議論しているが、積み残しがどんどん膨らんでいっている状態が続いている。先ほど、セラミックアートセンターが教育委員会の所管となった話があったが、郷土資料館とセラミックアートセンターの役割が将来どうなるのか、5年後、10年後どうなるのか、そういったことについて、委員会としての考え方を整理していただきたいと思う。</p> <p>また、旧岡田倉庫については、建物を修復して公開しているが、その報告書をどうするのかということも見えていない。</p>

	<p>やはり、教育委員会全体で、文化財について、この委員会でどのように議論して、保存、活用していくかということを考えてほしいと思っている。それが積み残しで膨大に広がっているのが現状だと思う。</p> <p>是非、そういったところを真摯に受けとめて、5年後、10年後を目指して検討をお願いしたいと思う。</p>
委員長	<p>旧岡田住宅の改築については、6月には基礎工事が始まる予定である。今までの工事で出てきた木杭が、同じような形で出てくる可能性があるのも、その調査をしておくべきだと思う。そこからまた、倉庫に連続的に木杭が出てくるようであれば、捉え方によっては、北海道では唯一の遺跡の可能性もある。</p> <p>建築的にも、考古学的にも重要なものになると思う。</p> <p>連続的に出てくるとすれば、旧岡田住宅よりも前の建物に関わる物である可能性があり、条丁目の区画を作った屯田兵に関わる話になるかも知れないので、そういったことも考えてもらえればと思う。</p> <p>それでは、これから高砂遺跡発掘調査現場の視察があるので、会議については、ここで終了させていただく。</p> <p>(終了時間11時00分 終了後、高砂遺跡発掘調査現場に移動し、視察)</p>